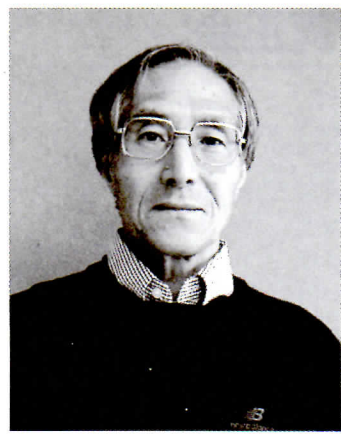


代表

齋藤 誠

(まごころ まいど)



座右の銘 「為せば成る」 (上杉鷹山)

「男のゆうゆう塾」

●団体概要

団体名：「男のゆうゆう塾」
 所在地：川越市広谷新町1-19
 所電話：049-231-5233
 活動日：7月～3月 土曜日3回程度
 設立：
 平成16年12月12日（公民館グループ登録認定）
 平成11年9月～男の週末友遊学（公民館主催）～
 平成14年9月～男の週末友遊学と共催～

●プロフィール

生年月日：昭和18年(1943)12月4日
 年齢：68歳
 出身地：東京都
 出身校：中央大学 経済学部
 血液型：A型
 趣味：日曜大工、長唄（三味線）
 主な活動：「世界遺産の遺跡」「シルクロード」の見学

充実ライフを提案・発信 黄金世代を華やかに

川越市西部地区。かつて河越城があった上戸。さらに西へ。鶴ヶ島との境は駅伝、野球そして、今回のロンドン五輪金メダル・ボクシング村田選手の「東洋大学」。そのあたりは名細(なぐわし)地区といわれる。名細公民館活動を進化させ、黄金世代を楽しみむ人びと、それが「男のゆうゆう塾」だ。

代表の齋藤は、定年後の生活を見越して居住する地域での活動を考えていた時、出会ったのが名細公民館主催の「週末男の友遊学講座」。地域の仲間と活動する面白さを知る。講座終了後その仲間たちと「男のゆうゆう塾講座」を立ち上げ以来、14年の月日がたった。ゆうゆう塾の会員は50代、60代の男性、みなが長年培った職業のエキスパートだ。年に20回前後の講座、3000回を軽く超えている。一年終了ごとに得た知識を地元に戻元する意味をこめて「おまつり」を開催。子どもからお年寄りまでを楽しませている。

講座内容は市役所から「基本政策、財政、都市計画」といったまちづくり。市内在住

外国人から「祖国からみた川越」。市内在住の各方面で活躍している人々からのユニークな話。塾のメンバーから現役時代に培った知識、技を披露してもらうこと。講演、料理、陶器などを製作、ハイキングやスポーツとバラエティにとんでいる。

齋藤が語る川越の魅力は、「江戸の名残の東京都はあまりに大きく、世界の都市として発展したため、歴史、史跡を呑みこんでしまった。川越はまさに江戸のミニサイズ。都内から近く、蔵造り、喜多院、本丸時の鐘などの観光、そばやうなぎなどの食文化と、着物や、端唄、長唄など邦楽が盛んな和の文化があふれる街で、新興都市にはない魅力がある」。

自分たちの住んでいる川越。このまちの人物、出来事、歴史などをみんなで共有していくことが「ゆうゆう塾」の活動の場となっている。

「たった一度しかない人生、ほんとうに生かさなかつたら人間に生まれてきたかいない」山本有三の「路傍の石」の志を見た。